

2021年2月28日

公式記録員ハンドブック（第1版）

日本ポニーベースボール協会

公式記録員とは

公式記録員は、所定の位置（本部席）で試合の記録適用に関して、例えばそれが**安打**によるものか、**失策**や**野手選択**によるものかなどを自己の裁量で決定を下し、必要箇所に伝達する権限を有する者である。

公式記録員は如何なる場合でも、野球規則並びに当該大会諸規則の記録に関する規則を含む各条項に反するような記録の決定を下してはならないし、審判員の判定に反する決定を下してはならない。

また、公式記録員は公平性の原則に基づき、打順の誤りに等に気づいても、審判員や両チームのいかなる人にも、その事実を告げたり、注意を促したりしてはならない。ただし、規則で交代することが許されていない投手に変わって他のプレーヤーが出場しようとしている場合、審判員や両軍の監督から規則等に関する確認があった場合に限り助言することが出来る。

試合終了後、公式記録員は、主審、両監督、グラウンド担当役員、イーゼースコアラーとともに試合結果を確認する。

公式記録員の役割

1. 各試合を1名で担当をする。
2. 公式記録員は、審判員の判定に基づき自己の裁量で記録に関する決定を行う。
※速やかにジャッジを行いイーゼースコア担当者に伝える。
3. 安打/失策・暴投/捕逸など試合中のプレー内容全般についてのジャッジを行う。
4. 記録決定に迷った場合に主審へ確認を取ることができる。
ただし確認する場合は、公式記録員→グラウンド担当役員→主審（もしくは塁審）のルートで実施するとともに、確認行為は試合が止まっている場合に限る。（試合を中断させてはならない。）
5. 試合結果報告にてコメントを記載する。

公式記録員が実施しては行けない事

1. 審判員の照会があった場合を除き判定が覆るような指摘をしてはならない。

基本的な判断基準

1. ヒットおよびエラー

(1) 野手

- A. 安打と失策の区分基準を、当該打球に追いついているか否かとする。
- B. 打球に追いついたけど落球をしたらエラー。(ゴロもフライも同様)
- C. 捕球体制に入っているにも関わらず落球した場合はエラーとする。
- D. ダイビングをして落球をしたら安打とする。(ゴロもフライも同様)
- E. ボテボテのゴロ(バントや小フライ等)で送球が間に合わなかった場合は安打とする。
- F. フライで頭を越されたら安打とする。
- G. お見合い、転倒、野手の交錯等で、ボールに触れていない場合は安打とする。(但し、何れかの選手がフェアゾーンに於いて捕球体制に入った後に当該事象が発生した場合はエラーとする。)
- H. 捕球する野手の両手・両足を伸ばした範囲外に送球が投げられた場合送球者のエラーとなる。

(2) 投手

捕手の胴体範囲内を捕手の守備範囲と定義する。

A. ワイルドピッチ

投手の投げた球が守備範囲外に投げられた場合。

B. パスボール

投手の投げた送球が捕手の守備範囲内に投げられたものの後逸した場合。

公式記録の判定項目

全てのプレーに対し速やかにジャッジをすること。また、際どいプレーであっても、唯一無二の存在であることを認識し自信をもって判断・決定する事。

その他

<守備>

1. イレギュラーとなった場合の判断基準

イレギュラーバウンドした場合、当該野手の胴体範囲外にイレギュラーした場合は安打とする。

2. フィルダースチョイス

フェアゴロを扱った野手が一塁で打者走者をアウトにする代わりに、先行走者をアウトにしようと他の塁へ送球し封殺等が出来なかった行為。

3. エラーにしてはいけない項目

A. ダブルプレーで二つ目のアウトを取ろうとした時、悪送球や落球でアウトにできなかった場合。

b. フライを落球した後、すぐにベースに送りアウトにした場合

<打撃>

1. 長打

二塁打・三塁打・本塁打については、当該塁に到達するまでの間に、失策となる要素が無い場合に各々の記録と決定する。

(二塁到達後、失策が発生し三塁に到達した場合は、二塁打とする)

2. 振り逃げ

打者三振の上で、具体的な判断基準 1 (1) (2) に記載されている基準を基に該当選手に対してエラーを付ける